

(3) 桜の分布状況

南区内で見られる桜の状況を立地別に整理すると次のようになります。

① 大岡川プロムナード

「南区さくらマップ」での調査の結果、南区全体には桜が4,500本以上植えられていることが分かりました。そのうち大岡川プロムナードには505本の桜が植えられ、区全体の桜の1割強を占めています（平成17年4月調査時）。大岡川は南区の中心を貫いており、毎年「南区桜まつり」で賑わうとともに、プロムナードは散策コースとして親しまれています。



大岡川（河床プロムナード）



弘明寺公園展望台からの眺望

② 道路／鉄道

高速道路や鉄道線路に沿って植えられている桜は沿道景観を特徴づけ、人々の目を楽しませてくれます。桜は、区内に出入りする人に南区のシンボルとして印象づけられます。



餅井坂下桜並木



京急弘明寺駅

③ 公園

弘明寺公園や蒔田公園などの大規模な公園は桜の名所として知られていますが、身近にある小規模な公園の約半数にも桜が植えられており、身近なお花見スポットとして親しまれています。



弘明寺公園



蒔田公園

④ 公共施設

区内の全ての小・中・高等学校には桜が植えられおり、特に高等学校は桜の名所として知られているところもあります。



神奈川県立横浜清陵総合高等学校

⑤ 斜面緑地

区内の7つの丘の斜面緑地にも多くの桜があり、遠くからでも眺めることができる桜は街の重要な景観資源となっています。



六ッ川1丁目

⑥ 戸建住宅地/集合住宅

個人の敷地内にも境界のシンボルとなるような見事な桜が見られます。集合住宅にも多くの桜が植えられており、シーズンにはオープンスペースや建物周辺で住民がお花見を楽しむ姿が見られます。



永田北三丁目



公団南永田団地

⑦ 寺社仏閣等

区内に点在する寺社仏閣や教会などにも桜の名所が数多く含まれています。



常照寺



増徳院

3 大岡川プロムナードの桜並木

(1) 大岡川の桜並木の歴史

大岡川沿いには太平洋戦争前から桜が植えられていましたが、戦中・戦後の燃料不足の際に多くの桜が薪として伐採されました。その後、少しずつ桜の植樹が行われ、プロムナードの整備に合わせて多くの桜が植樹され、現在のような桜並木が形づくられました。(区民ヒアリングにおける大岡川沿いの住民の方々の話による)

(2) 大岡川プロムナードの概要

[南区の魅力づくりの軸]

大岡川プロムナードは、区を中心を流れる大岡川を「歩行者が安全で快適に川辺を散歩し、川に接することもできる潤いのある空間」として整備したもので、川と丘のまちである南区の魅力づくりの軸となっています。

[事業の経緯]

大岡川プロムナード構想は緑の軸線構想(山下公園から大通り公園を経て蒔田公園にまで至る緑の軸を都心部に創り、周辺市街地環境整備の契機とするとともに、歩行者が安全に快適に散策できるルートを整備するもの)を都心部周辺にまで拡大したものです。区民からの永年にわたる要望を受け、昭和55年度から事業化されました。

[プロムナード整備概要]

区間：南区与七橋～南区太田橋間 (約 3.5 km)

工事：観音橋～太田橋 (昭和 55 年～昭和 60 年 3 月)

与七橋～観音橋 (昭和 62 年～平成 3 年 3 月)

植栽：昔からの桜を残しながら、桜 (ソメイヨシノ) を 7.0～7.5m 間隔で植樹しました。また、桜以外のシンボルとなる木を橋ごとに替えて植え、特徴をつけています。



出典：大岡川プロムナード事業パンフレット (昭和 57 年・横浜市道路局南土木事務所・企画調整局都市デザイン担当)



整備前(大岡小学校前・右岸)



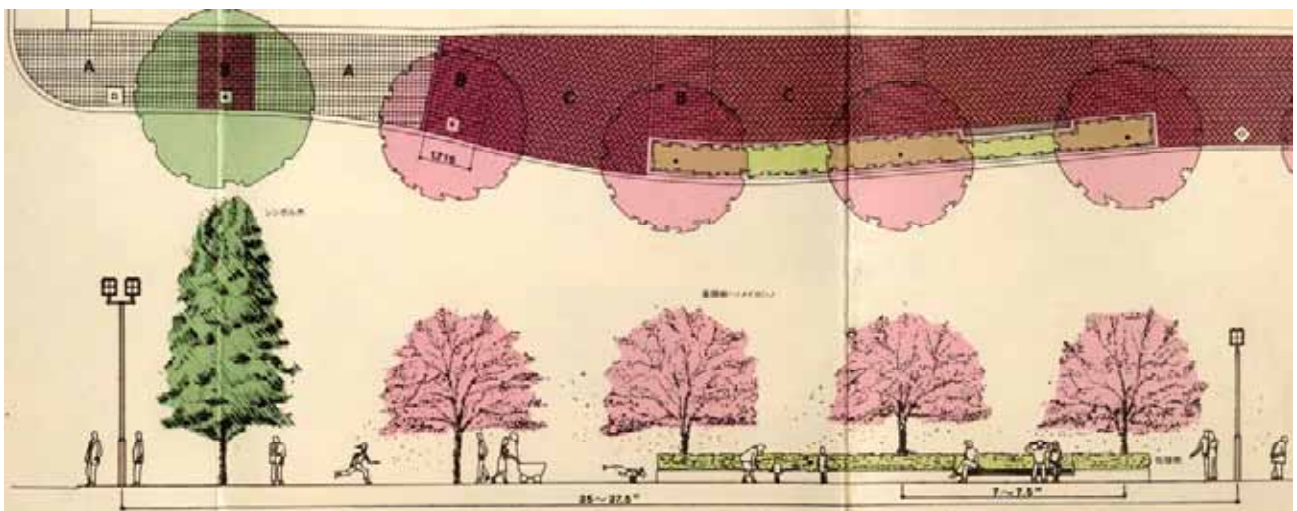
整備後



整備前(現在の NTT 東日本神奈川支店 横浜南ビル前・右岸)



整備後



出典：大岡川プロムナード事業パンフレット（昭和 57 年・横浜市道路局南土木事務所・企画調整局都市デザイン担当）

(3) 樹木診断の結果

南区役所では、平成 15 年度から 17 年度にかけて樹木医による大岡川プロムナード桜並木の樹木調査を行いました。

調査対象樹木 ：南区内の大岡川プロムナード沿いで、植栽マス又は植樹帯に植えられている桜 (左岸 246 本・右岸 259 本/ 両岸合計 505 本)	
調査区間	：左岸（与七橋から太田橋間）、右岸（与七橋から白金橋間）
調査内容	：①樹木の健全度調査、②病害等の傾向把握調査
調査時期	：①平成 16 年 3 月、平成 17 年 1 月、②平成 17 年 5 月

① 樹木の健全度調査

◇樹木調査

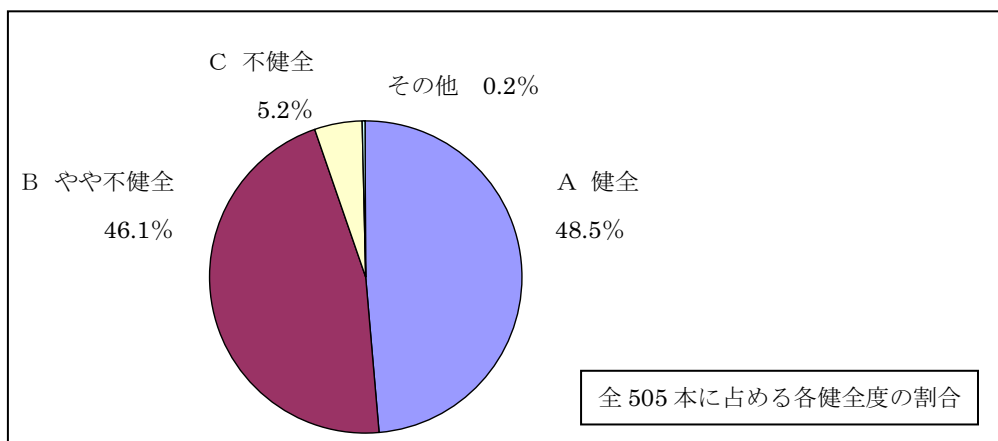
- ・調査対象樹木への番号札の取り付け及び要診断樹木の抽出を行いました。
- ・両岸合計 505 本のうち 271 本が、平成 15・16 年度に外観診断を行う必要のある要診断樹木として、抽出されました。

◇樹木診断

- ・要診断樹木を対象に外観診断を行い、樹木診断カルテを作成しました。
- ・診断内容は、形状寸法、樹木の活力、精密診断の要不要、健全度の判定等です。
- ・健全度の判定結果は以下の通りです。

◇健全度調査結果

健全度	外観診断判定の結果	本数		
		左岸	右岸	計
A 健全	・平成 15・16 年度に外観診断を行う必要がないと判断されたもの ・診断項目の全てにおいて概ね異常のないもの	164	81	245
B やや不健全	・今後観察が必要なもの ・倒木防止、剪定・施肥・薬剤散布・その他の処置が必要なもの	71	162	233
C 不健全	・診断項目に一つでも植え替えの判定があったもの	10	16	26
その他	・平成 17 年度水道管工事のため伐採予定のもの	1	0	1
	計	246	259	505



大岡川プロムナード樹木診断結果（健全度）

南区では平成15年度と16年度に樹木医による大岡川プロムナード桜並木の樹木調査を行いました。その結果は以下の通りです。

調査対象樹木：南区内の大岡川プロムナード沿いで、植栽マス又は植樹帯に植えられている桜。

調査区間：右岸（与七橋から白金橋間）、左岸（与七橋から太田橋間）

調査時期：平成16年3月、平成17年1月

[左岸]

植栽されている桜の本数…………… 246本 (100%)

健全度評価

A 健全…………… 164本 (66.7%)

B やや不健全…………… 71本 (28.9%)

C 不健全…………… 10本 (4.0%)

※その他（工事による伐採予定の桜）… 1本 (0.4%)

[右岸]

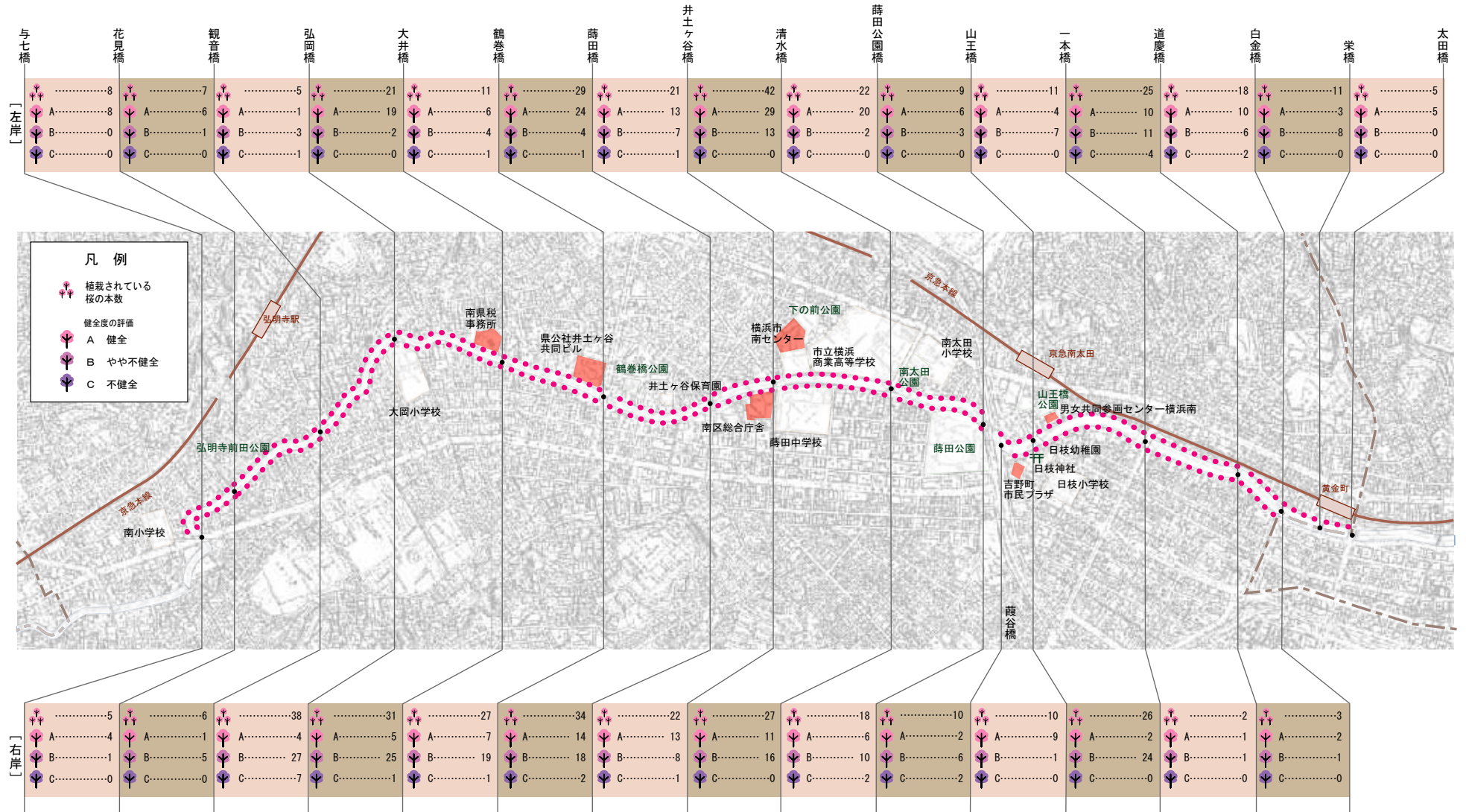
植栽されている桜の本数…………… 259本 (100%)

健全度評価

A 健全…………… 81本 (31.3%)

B やや不健全…………… 162本 (62.5%)

C 不健全…………… 16本 (6.2%)



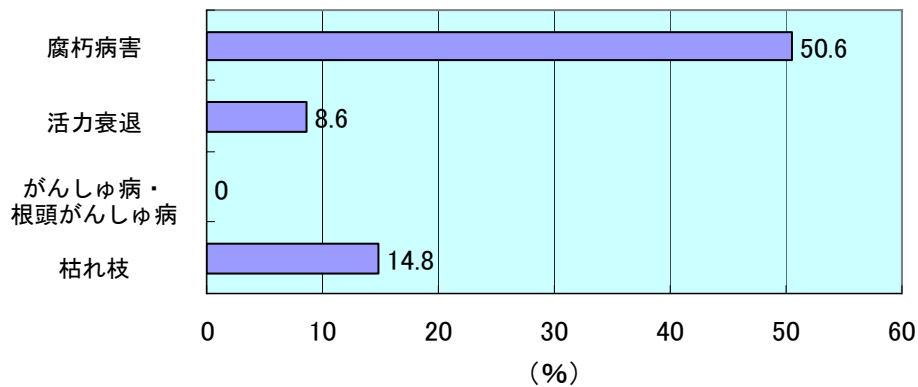
② 病害等の傾向把握調査

- ・プロムナードの桜の樹勢や病害等の傾向を全体的に把握するため、樹木の健全度調査結果をもとに、樹勢や病害等の種類について、外観調査を行いました。
- ・腐朽病害（キノコ・空洞・腐朽）、活力衰退、がんしゅ病、枯れ枝の4種類を主要な病害等として取り上げ、その傾向を把握しました。

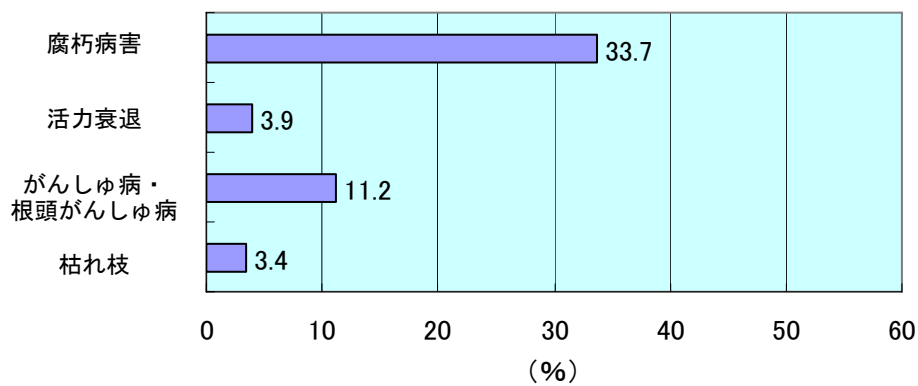
[考察]

- ・蒔田公園橋～太田橋左岸で病害等を持つ桜が多く、腐朽病害の他に活力衰退、枯れ枝が目立ちました。
- ・左岸では、若木でもキノコの着生したものが多くありました。がんしゅ病等は確認されませんでした。
- ・与七橋～鶴巻橋右岸に病害等を持つ桜が多く、腐朽病害が多くを占めていました。
- ・鶴巻橋～白金橋右岸では比較的病害等を持つ桜は少ないものの、活力が衰退している桜が多くありました。
- ・大井橋～井土ヶ谷橋右岸ではがんしゅ病等の症状が目につきました。

健全度BとCの合計本数 81 本に
見られた病害等の割合（左岸）



健全度BとCの合計本数 178 本に
見られた病害等の割合（右岸）



[樹勢衰退の原因と対策]

大岡川プロムナードで見られた桜の主要な4つの病害等の原因と一般的な対策は次のとおりです。一般に樹木は活力が衰えると病気にかかりやすくなります。特に桜は病害等に弱い樹といわれています。更に有効な治療方法が少ないのが現状です。

◇腐朽病害（キノコ・空洞・腐朽）

症状	●幹や根が腐朽し、腐朽が進むと空洞化します。 ●コフキササルノコシカケ等が着生し、樹木の内部を分解します。
原因	●プロムナードの舗装材が幹の根元に食い込んだり、車両等の接触で樹皮が欠損してできた傷口から、腐朽菌が侵入することが原因です。
対策	●腐朽部位を切除して防腐処理を施し、傷口には保護剤を塗布します。 ●キノコは腐朽末期になると発生し、治療は困難ですが、樹勢の維持や回復をはかる処置が様々な角度から試みられています。

◇活力衰退

症状	●葉が萎縮したり、早期落葉するなど樹木の活力が衰退します。
原因	●樹木の幹の大きさに対する植栽地の表面積の狭さや土壌の踏み固めによって、根の発育阻害等が起こり、養水分が十分に供給されないことなどが原因となります。
対策	●根の発育に配慮して、植栽地の表面積の拡大や土壌の踏み固めの防止など樹木の育成環境を改善します。

◇がんしゅ病

症状	●幹にこぶが生じます。
原因	●コスカシバなどが幹に孔（あな）をあけて樹皮下を食害する昆虫の影響などによって起こります。桜の細胞が異常繁殖し、がんしゅとなります。
対策	●コスカシバなどを防除します。

※ その他がんしゅ病の一種として、土壌中の細菌によって根にこぶが発生する根頭がんしゅ病もあります。

◇枯れ枝

症状	●枝が枯れます。
原因	●腐朽菌の侵入による枝枯れや根からの水分供給不足などが原因です。
対策	●枝枯れの原因を調べ、それに応じた対策をとります。 ●枯れ枝は、腐朽菌の侵入を防ぐと共に、落下による危険を取り除くために、切除します。 ●定期的な巡回により早期発見に努め迅速な対応を行います。



腐朽病害
コフキササルノコシカケの発生



活力衰退
上部の葉の量が少ない



がんしゅ病
幹に生じたこぶ



枯れ枝
枝が枯れている

◇進むべき対策の方向

各病害等に応じた対策が必要ですが、樹木は樹勢が衰えると病害等にかかりやすくなるため、予防的措置が大切になります。予防的措置としては、植栽地の表面積の拡大や踏み固められた土壌をやわらかくするなどの土壌条件の改善によって、土壌への雨水や空気、養分（落葉）等の供給を確保することが必要となります。

(4) 歩行空間の課題

昭和 55 年度から行われた約 3.5km にわたる大岡川プロムナードの整備は、昔からある桜を極力残す方針で進められました。その結果、樹齢 60 年を超えた幹周 150cm 以上の古木が数多く残され、豊かな桜並木を形成しています。

しかし、4.5m の車道幅員を確保する計画であったため、幅の狭い歩道が、桜の成長とともにさらに狭くなり、歩道幅員が 1.0m 以下の場所が数多く見られます。また、桜の根がプロムナードの舗装を持ち上げて通行に支障をきたしているところも多く、改善の必要があります。

このような歩行空間の問題に加え、施設の老朽化や歩道への車両の乗り入れ等が、課題としてあげられます。

課題	内容
歩行空間	歩道幅員が狭いところがある <ul style="list-style-type: none"> ・歩道幅員自体が狭い ・桜の成長に伴い、通行可能な幅が狭い ・設置物（標識、照明、サイン等）により通行可能な幅が狭い
	歩道の勾配がきついところがある <ul style="list-style-type: none"> ・橋から歩道への勾配がきつい ・歩道の切り下げ区間の勾配がきつい
	桜の根元周辺の舗装が傷んでいるところがある <ul style="list-style-type: none"> ・樹木の根による舗装面（レンガ等）や縁石の盛り上がりやひび割れ
施設	手すりやサイン、ベンチが老朽化しているところがある <ul style="list-style-type: none"> ・塗装の剥離によるサビの発生 ・表面の劣化
利用状況	違法駐輪・駐車がみられる <ul style="list-style-type: none"> ・指定場所以外での駐輪 ・歩道への乗り入れ駐車
	歩道上に個人で育てている植物（植木鉢、プランター）等の私物が置かれているところがある

II章 区の花「さくら」の現状と課題



橋と歩道をつなぐ急勾配部分。
道路標識、照明、サイン等が乱立し、狭い。



歩道幅員が狭い。
桜の根元の舗装に盛り上がりやひび割れが生じている。



桜の根元の舗装に盛り上がりやひび割れが生じている。周辺には個人の鉢植えの植物が見られる。



手すりの塗装が剥げ、サビが発生している。



植栽ますと一体型のベンチ。座面の木にひび割れが生じている。

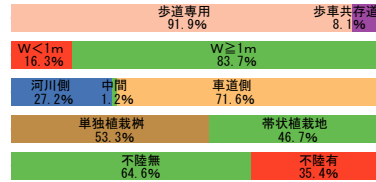


違法駐輪、違法駐車が見られる。

大岡川プロムナード道路空間調査

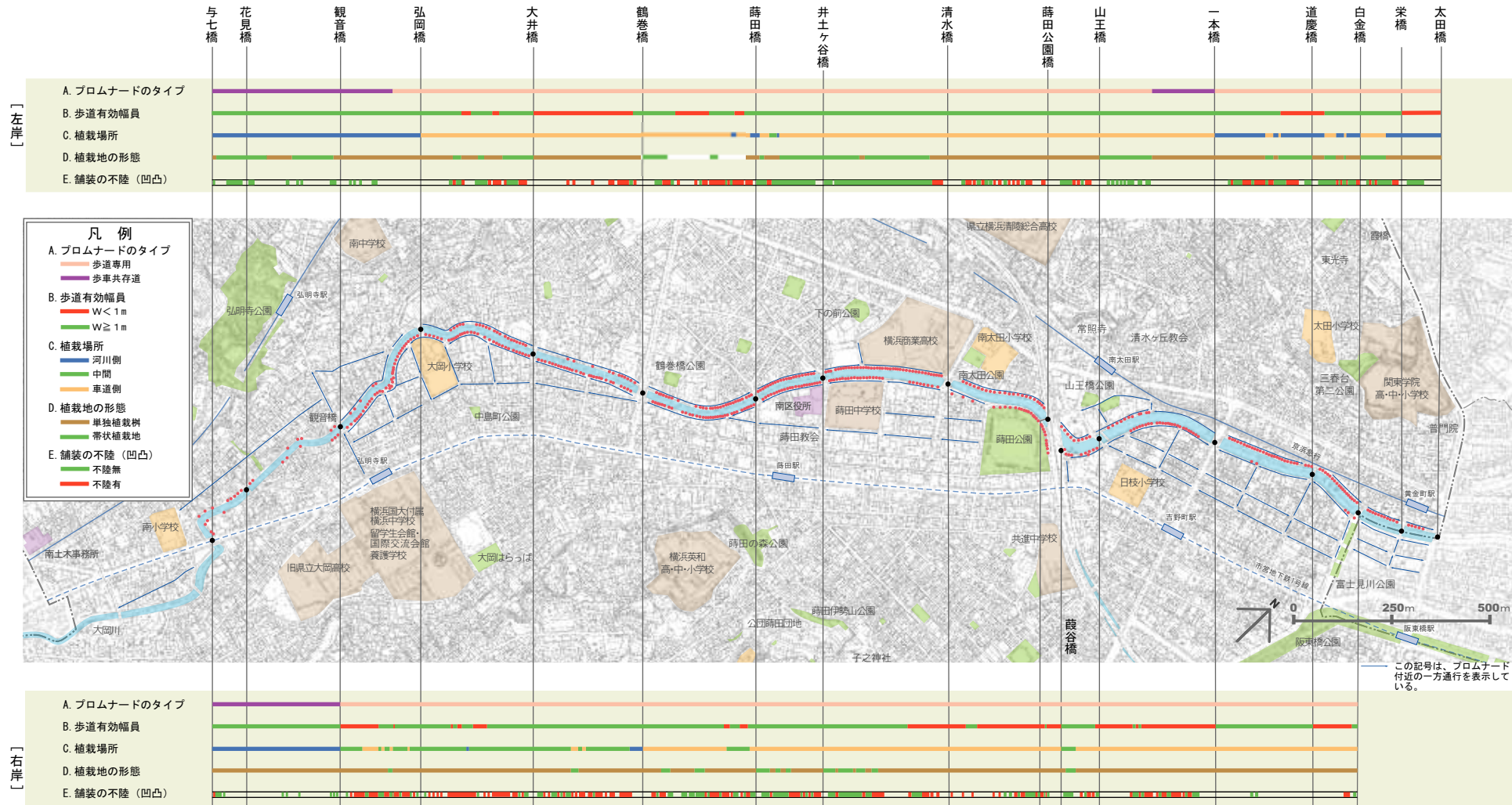
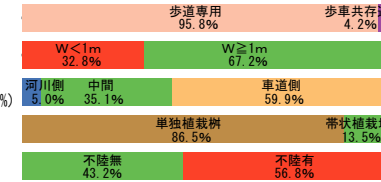
[左岸] 総本数246本

- A. プロムナードのタイプ
 - 歩道専用 226本 (91.9%)
 - 歩車共存道 20本 (8.1%)
- B. 歩道有効幅員
 - W < 1m 40本 (16.3%)
 - W ≥ 1m 206本 (83.7%)
- C. 植栽場所
 - 河川側 67本 (27.2%)
 - 中間 3本 (1.2%)
 - 車道側 176本 (71.6%)
- D. 植栽地の形態
 - 単独植栽樹 131本 (53.3%)
 - 帯状植栽地 115本 (46.7%)
- E. 桜の植栽された箇所の舗装の不陸(凹凸)
 - 不陸無 159箇所 (64.6%)
 - 不陸有 87箇所 (35.4%)



[右岸] 総本数 259本

- A. プロムナードのタイプ
 - 歩道専用 248本 (95.8%)
 - 歩車共存道 11本 (4.2%)
- B. 歩道有効幅員
 - W < 1m 85本 (32.8%)
 - W ≥ 1m 174本 (67.2%)
- C. 植栽場所
 - 河川側 13本 (5.0%)
 - 中間 91本 (35.1%)
 - 車道側 155本 (59.9%)
- D. 植栽地の形態
 - 単独植栽樹 224本 (86.5%)
 - 帯状植栽地 35本 (13.5%)
- E. 桜の植栽された箇所の舗装の不陸(凹凸)
 - 不陸無 112箇所 (43.2%)
 - 不陸有 147箇所 (56.8%)



(平成17年5月調査)